

若い世代に伝えたい建設業の魅力

(令和元年度 山梨県知事表彰)

飯田鉄工株式会社
北村隼斗

私が思う建設業の魅力とは、社会の役に立っている実感、大きなスケールで「ものづくり」が出来る、協力して物事を成し遂げる喜びがある、段取りを組む力を養える。以上のことが私の考える建設業の魅力だと思います。

社会の役に立っている実感とは、建設会社が手掛けていく「街づくり」は、結果的に多くの人々の暮らしをささえることにつながります。

道路や橋といった多くの人々が利用するものに関わると、地域の方々に「ありがとう」と言っていただけのことも多く、うれしい気持ちになります。

また、ダム建設などの災害対策や復興支援などにも携わることができ、社会と人々の役に立っている実感が味わいやすいところはこの仕事の魅力だと言えると思います。

建設に興味あり、さらに社会貢献性が高い仕事に就きたいと考えている人であれば、大きな誇りとやりがいを持って働くことが出来ると思います。

「ものづくり」とは、技術力と設計開発力で製品を作る「ものづくり」これには、自動車、家電、パソコンとさまざまな産業がありますが、なんといってもものづくりの中でスケールの大きさは建設業ではないでしょうか。

物造りのどの成果物も誰かの役に立つために造られています。建設業ではひととき大きなものづくりを行います。地図に記載される例も少なくないそのケースから、しばしば「街づくり」と呼ばれるほどです。スケールに関しては、何かを生み出す産業の中でもトップだと思います。

高層ビルなど、地上からでは全貌が見えない構造物も建設業従事者が協力して作り上げた物です。「せっかくであれば大きなものづくりをしたい」と思う方には、打ってつけの職業だと思います。

協力して物事を成し遂げる喜びがあるとは、現場作業の仕事柄体力仕事と

いうイメージが強い建設業ですが、実際はさまざまな人達が携わっています。男性や女性、若年層から年配者までさまざまな人達が携わっています。現場作業を担当する方は体力と経験で、他の方は知識や戦略、あるいは思いやりでお互いの業務を支えています。

大きな仕事になるほど、関わっている人達も多くなります。工期も年単位と長くなることも少なくありません。その間、すべての人員が「建設物の完成」という1つの目標に向かっていきます。

そのため、各現場では強い絆が生まれます。お互いに協力し合い大きな仕事を成し遂げたいという志を持っている方には最適な環境だと思います。

段取りを組む力を養うとは、基本的に、建設作業は適正に決められた段取りに沿って進められます。携わっている人達のすべては、基本的には段取りを意識することになります。

そのため、仕事を進めていく上で守るべきルールや作業の効率化等の考え方が自然と身につきます。場合によってはコスト管理の考え方も求められるでしょう。

こうした学びの多くは、仕事外でも生かされるものです。建設業の仕事で身に付けた知識や工夫が生活にも生かされ、豊かな気持ちで暮らせるようになった例は少なくないと思います。段取りを組む力に課題感を覚えている方や「大きなものづくりに携わりたい」と思う方には挑戦してもらいたい業種だと思います。

建設業界が抱えている「人材不足という問題を解決するためには、やりがい」を存分に伝え、業界のイメージを変えていくことが大事だと思います。建設業従事者が実際に感じているやりがいや魅力は、何よりもリアルなアピールだと思います。このような機会を設けていくことも必要ではないでしょうか。私も少なからず業界のイメージを変えていけるようアピールしていきたいと思っています。